

山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会

平成 26 年度事業報告（案）

平成 26 年度においては、事業計画に基づいて、下記の事業を実施した。

- 1 スマート観光情報インフラ（コンテンツ、アプリ、端末、ネットワーク等）の整備
 - (1) アプリの構築に対する支援・協力
広島県広島市及び廿日市市並びに山口県岩国市が連携して取り組んだ観光アプリの構築に際し、運用・保守費用相当額を負担した。
 - (2) コンテンツのリッチ化に対する支援・協力
会員が実施した観光アプリの構築に際し、音声読み上げ、多言語化の支援を行った。
 - ア 島根県大田市
 - ・日本放送協会広島放送局の協力による音声化
 - ・広島修道大学（地域つながるプロジェクト2014）の協力による多言語化（中国語、韓国語）
 - イ 広島県広島市
 - ・多言語化（英語）費用を負担
 - ・株式会社メディア中国の協力による音声化
 - ウ 広島県廿日市市
 - ・多言語化（英語）費用を負担
 - ・株式会社メディア中国の協力による音声化
 - エ 山口県岩国市
 - ・多言語化（英語）費用を負担
 - ・株式会社アイ・キャンの協力による音声化
 - (3) Wi-Fi ネットワークの整備に対する支援・協力
Wi-Fi ネットワークの整備に取り組む会員に対し総務省の防災情報ステーション等整備事業の活用を促し、2 会員が補助金の交付を受け整備を行った。
 - ア 島根県松江市 16 箇所

- イ 山陰ケーブルビジョン株式会社(安来市内) 70箇所
- ウ 北広島町 59箇所

2 スマート観光情報インフラ（コンテンツ、アプリ、端末、ネットワーク等）に関する実証実験・パイロット事業等の推進

ソフトバンクモバイル株式会社の提案による「Google Glass を活用した AR 観光アプリの実証デモンストレーション」を平成 26 年 5 月 26 日に広島平和記念公園において実施し、23 名の会員が参加した。

3 プロジェクトの推進に係る広報・PR

(1) スマート観光体験バスツアーの実施

スマート観光情報インフラの有効性を広報・PR することを目的として、平成 26 年 6 月 19 日に、スマート観光情報インフラを先行的に整備された出雲市（出雲大社）及び大田市（石見銀山）を訪問する体験バスツアーを実施し、会員を中心に 41 名が参加した。

(2) セミナーの開催

平成 26 年度総会（平成 26 年 4 月 21 日）の終了後、「ICT 利活用推進セミナー」を開催し、会員を中心に約 70 名が参加した。セミナーでは、能登半島における取り組みの紹介及び会員による観光情報インフラのプレゼンテーションを受けた。

4 プロジェクトの推進に係る調査検討

観光アプリの共通プラットフォーム化に関する検討に関しては、各地域の観光アプリを 1 回のダウンロードにより利用可能とするような仕組み（方策）を検討することとしていたが、各観光アプリの開発仕様が様々であり、当初目標としていた 1 回のダウンロードによる利用可能は調査結果から実現困難であることが判明し、断念せざるを得なかった。

5 会議開催状況

総会 平成 26 年 4 月 21 日（月） KKR ホテル広島

また、電子メール等により、会長、会長代理及び幹事の間で随時打合せを行った。